

ドキュメンタリー映画から世界にとびだそう!

ドキュメンタリー・ドリーム・ショー 山形in東京2008

Documentary Dream Show—Yamagata in Tokyo 2008

スペシャル企画



11月11日(土) 11月14日(日) レイトショーのみ 118→114 ポレポレ東中野

中国★ドキュメンタリー 20年 記録映画の

主催:シネマトリックス 共催:山形国際ドキュメンタリー映画祭...

上映スケジュール table with columns for date, time, and film title.

上映会場:ポレポレ東中野. チケット:前売1回券1,000円... お問い合わせ:シネマトリックス

レイトショー 11月8日(土)~11月14日(金) table with columns for date, time, and film title.

山形国際ドキュメンタリー映画祭 (YIDFF) 11月11日(土) 14:00~

トークやイベントなど盛りだくさん。各プログラムゲスト紹介をご参照ください。

ドキュメンタリー・ドリーム・ショー 山形in東京2008 関連イベント. 11月31日(金) 13:30~ 中国、沖縄 ドキュメンタリー/アートの可能性

オキナワ、イメージの縁 映画篇

YIDFF2003「沖縄特集 琉球電影列伝/境界のワンダーランド」は、山形のあとに東京、そして沖縄へも移動して「琉球電影列伝」を開催し、多くの反響を呼び集めた特集であった。

Movie listings for 'オキナワ、イメージの縁 映画篇' including '夏の子', '激突死', 'それは鳥', 'それぞれの15年', '反国家宣言', '博徒外人部隊', '神々の深き欲望', '東シナ海', '沖繩・祖国への道', '沖繩の声', '石のうた'.

Movie listings for 'オキナワ、イメージの縁 映画篇' including '沖縄列島', 'オキナワドリームショー', '沖繩エロス外伝・モトシカカラヌー', 'オキナワ チルダイ (特別版)', 'オキナワ ドリーム ショー', 'リニアへの旅の追憶'.

中国★記録電影の20年

中国ではこの20年、国家統制から自由に、個人の視点を打ち出すインディペンデント・ドキュメンタリーが増えてきた。特権だった映像制作が、いまや詩を書くように誰にも可能になった時代が到来し、映画に中国のさまざまな諸相が現れる。天安門事件からオリンピックまで、同時代を生きた個人映像作家たちの挑戦をこの機会にごらんください。

※作品データ付記がないものは中国/中国語

北京1990sと呉文光

天安門事件で知られる1989年前夜の北京は自由と開放を求める空気に満ち溢れていた。全国から規格外の生き方を求める若者たちが北京へ向かい、当局による配属を拒否。彼らは居住許可もない、不安定で貧しい生活の中で、自由な個人の芸術活動を目指した。



四海我家

四海為家 At Home in the World
1995/カラー/DVcam/120分(本編70分版)
監督:呉文光(ウー・ウェンガ)
かつて芸術家を夢見て北京に上京した友人らが、90年代に中国を離れて世界へ出ていく。前作『流浪北京』のダイジェストと佐藤真監督との貴重な対談模様を合わせたNHK番組の上巻。
11.1(日)11:00 トーク(呉文光)

雲南出身の呉文光は、テレビ局の機材を流用しながら写真、美術、演劇などを夢見る仲間たちを撮り始めた。社会の圧迫感から突破を熱望する彼らの本音を『流浪北京:最後の夢想家たち』に映し、1990年に完成させた。次に文化大革命の紅衛兵だった人々をインタビューした『私の紅衛兵時代』が海外各地で上映され、山形映画祭でも第1回小川紳介賞に輝いた。呉文光は来日をきっかけに『四海我家』(『流浪北京』の続編)の製作資金を得ることになった。当時北京でドキュメンタリーを作り始めた仲間、張元(『広場』『小さな赤い花』)らにいた。お約束で塗り固められた既存のテレビ・ドキュメンタリーと統制社会をぶち破る、荒々しいエネルギーに満ちた中国ドキュメンタリーの黎明期だった。

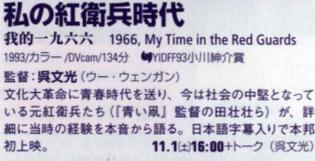
ゲストプロフィール

呉文光(ウー・ウェンガ)
1956年雲南省生まれ。中国インディペンデントドキュメンタリーの先駆者。ドキュメンタリーを作り発表するだけでなく、海外で得た知識や情報を国内に広める出版物、ワークショップや上映活動を通じ、15年来ドキュメンタリー運動を牽引。舞台芸術にも深く関わり海外公演も多い。近年は北京の仕事場「草場地ワークステーション」を拠点に、若者や農民ら「素人」による映像記録活動の支援に専念している。代表作に『流浪北京:最後の夢想家たち』(1990)、『私の紅衛兵時代』(1993)、『四海我家』(1995)、『江湖』(1999)、パフォーマンス・アートを記録した『出稼ぎ労働者と語る』(2001)。
レクチャー「中国ドキュメンタリーの20年」
11.1(日)14:00 ~
映像を交えながら、呉文光監督がこの20年の中国ドキュメンタリー映画シーンを語ります。(1回分のチケットが必要です)
上映とトーク 11.1(日)11:00『四海我家』
11.1(日)16:00『私の紅衛兵時代』



私の紅衛兵時代

我的一九六六 1966, My Time in the Red Guards
1993/カラー/DVcam/134分
監督:呉文光(ウー・ウェンガ)
文化大革命に青春時代を送り、今は社会の中堅となっている元紅衛兵たち(『青い嵐』監督の田社社)が、詳細に当時の経験を本音から語る。日本語字幕入りで本邦初上映。
11.1(日)16:00 トーク(呉文光)



広場

広場 The Square
中国、日本/1994/カラー/35mm/100分
監督:張元(チャン・ユアン)、段錦川(ドワン・ジンチャン)
多くの歴史的な事件の舞台となった天安門広場の、1994年の日常をじっと見つめる。風掃けば砂、テレビ取材班、武装警察、おのぼりさん。ノンレーション観察スタイルのひとつの手法となった。
11.2(日)13:00

生活実感を伴う長期撮影

90年代後半に入り、加速化する経済成長に促され社会が劇的に変わり始めた。同時にドキュメンタリーを試みる人の輪は広がり、市井の人々を被写体に長期撮影する、生活実感に裏づけられた独特の作品群が生まれ、中でも女性監督たちの活躍が際立った。留学中の日本で、三里塚闘争の映画を連作した小川プロと出会い、馮麗は長江の農民を撮り始める。

北京の出稼ぎ少女たちを記録した李紅は、彼女たちの狭い部屋で寝起きを共にし、心を通わせ、長期撮影を続けた。テレビ・ディレクターの常識を踏み出す手法だった。人民解放軍の歌舞団所属の女優だった楊天乙は、賈樟柯監督の『プラトホーム』など独立映画の人脈に触れられ、自らも四季を通して地元の人々の撮影を続けた。王芬にとって、モデルをしたり実験演劇の舞台に立つこと、ビデオカメラを使うことはそうでもない感覚だったかもしれない。家族をまるで他者のように見つめる独特な距離感、客観と共感の絶妙なバランスに立つ。王芬はいま、劇映画の監督として活躍している。



長江の夢

長江の夢
Dreams of Changjiang
1997/カラー/Beta-cam/85分
監督:馮麗(フォン・イェン)
三峡ダム建設のため、移住を余儀なくされる川沿いの村人。各人の事情を丹念に取材し、その心理に近づく。YIDFF 2007に『兼愛』で小川紳介賞を受賞する馮麗監督の原点。
11.4(日)15:00



鳳凰橋を離れて

回帰鳳凰橋 Out of Phoenix Bridge
1997/カラー/Beta-cam/110分
監督:李紅(リー・ホン)
実家から夫の家へ嫁ぎ、働きづめの未来が控える田舎娘にとって、北京で出稼する数年間は苦しくても自由の夢が見られるひと時。彼女たちの揺れる心情を女性監督が至近距離から追う。
11.6(日)15:30



老人

老頭
Old Men
1999/カラー/Beta-cam/94分
監督:楊天乙(ヤン・ティエンイー)
北京郊外の集合住宅。毎日同じ街角に老人たちが集まる井戸端会議。照りつける夏の暑さに耐え、春の突風に吹かれてよるよる歩き、町が町に覆われた静寂の冬に姿を隠す。
11.2(日)11:00



不幸せなのは一方だけではない

不快樂の不止一個 More than One Is Unhappy
2000/カラー/Beta-cam/45分
監督:王芬(ワン・フェン)
2000/カラー/Beta-cam/45分
監督:王芬(ワン・フェン)



一緒にの時

在一起的時光
Wellspring
2002/カラー/DVcam/49分
監督:沙青(シャ・チン)

中国にもついに家族ドキュメンタリーが登場した『不幸せなのは一方だけではない』。浮気が自慢の鉄道員の父と、結婚生活の苦勞ばかり語る母を22歳の作者が軽やかなステップで捉え直す。併映は『一緒にの時』。衰弱して脳性麻痺の少年と家族の物語を高感度化涙を誘う。
11.7(日)16:30

映画的な充足へ

2000年以降の中国ドキュメンタリーの急増は、まちがいでデジタル革命のおかげだろう。デジタルビデオ(DV)の撮影と廉価な海賊版ソフトに支えられた自宅PC編集は、映像業界と無関係だった多くの素人に映画表現の門戸を開いた。一方で、現実の報道的な記録に留まらない、より映画的な作品を完成させようとする野心ある作家たちが次々と作品を発表した。日本在住の李麗は、小型DVカメラの利点を撮影に生かしながら、35mmフィルムに仕上げ、当時先端の技術力を駆使した作品を製作。山形映画祭で2003年(『鉄西区』)と2007年(『鳳鳴—中国の記憶』)にグランプリを受賞した王兵は、個人がたつたひとりでカメラを回す行為の中に、中国の歴史や社会制度を批評する潜在力があることを実践で示した。『水没の前に』を含むこれら映画的な中国ドキュメンタリーは、数多くの国際映画祭で喝采を浴び、その作家的な視点と時代との呼応を見せつけた。



2H

日本/1999/中国語、日本語/カラー、モノクロ/35mm/120分
監督:李麗(リー・リン)
English subtitled
[韓国 YASUKUNI]の李麗監督の初長編。若い女性芸術家とかつて国民党の将軍だった老人—東京在住の中国人ふたりを軸に疎外と孤独を描く。
11.6(日)18:00



水没の前に

淹没 Before the Flood
2004/カラー/DVcam/143分
監督:李一凡(リー・イーファン)、鄒雨(ズー・ユイ)
English subtitled
三峡ダムの建設で水没予定の奉節の町は、立ち退きや取り壊しに伴う混乱で大騒動となっていた。キリスト教会の人間関係や安宿の主人が当局の難いを厳密に記録したカメラの運は現地を熟知する監督たちならでは。
11.2(日)15:10

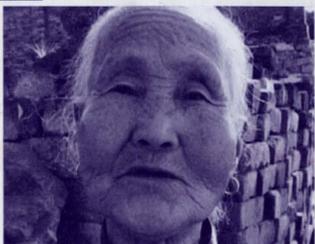


鳳鳴—中国の記憶

和風鳴
FENGMING A Chinese Memoir
2007/カラー/DVcam/183分
監督:王兵(ワン・ビン)
English subtitled
1950年代、幾たびもの清浄運動で迫害を受けたある老女の壮絶な物語が、ほとんど編集をささない固定カメラの映像と音声を通して圧倒的な波動で押し寄せてくる。
11.5(日)13:10

描かれて存在が輝く

近年の中国ドキュメンタリーはスタイルやテーマ、撮影場所や撮り手が多様化し、様々な視点による「知られざる中国」がその魅力を見せている。ろう者や受難生の日常生活に踏み込んだ精緻な作品や、政府の取り壊し・移住政策に対して、それを受けいれる都会の老人や抵抗する三峡の農民女性の素顔を、至近距離から見つめた作品がそれぞれ胸に迫り、中国という巨大で多様な国の理解を深める。かつての政治プロパガンダ的手法の反動で、音楽やナレーションを使わない観察型の作品が相変わらず多いが、被写体や題材の珍しさに留まらない成熟を感じさせる。風のように体感させる感覚的な作風(『風経』)や現代アートや音楽との合作も可能性を広げている。



陳焜

陳焜 Chen Lu
2004/カラー、モノクロ/DVcam/29分
監督:林森(リン・シン)
English subtitled



三元里

三元里 San Yuan Li
2003/ダイアログなし/モノクロ/ミニDV/44分
制作:歐寧、曹斐、線影会(U-theque)



白塔

White Tower
2003/カラー/DVcam/83分
監督:蘇青(スー・チン)、米娜(ミー・ナー)
English subtitled
中国で初めてろう者の恋愛と感情世界を描いた作品。手話で交わされる活発な会話感が躍動感あふれる。
11.7(日)14:30



蔣氏の家

房東蔣先生
Last House Standing
2004/カラー、モノクロ/DVcam/54分
監督:千超(ガン・チャオ)、梁子(リャン・ツ)
English subtitled
画面上による初監督作品『陳焜』は、陶器の街と人を瑞々しく描く。『蔣氏の家』は、初老の生計上海「貴族」が、まなご(取り壊される屋敷で北京女性と同居することになる。異文化摩擦と友情の物語。
11.4(日)17:00



風経

風経 Blossoming in the Wind
2004/チベット語、中国語/カラー/DVcam/60分
監督:孫悦凌(スン・ユエリン)
English subtitled
広州の旧市街地を撮りまくった映像を編集し、アンビエント音響をつけた秀逸なビデオアート『三元里』。『風経』はチベット仏教の若い僧侶と弟子、そして監督が聖の聖山を巡る至福の旅。どちらも手持ちDVカメラの自由自在。
11.4(日)18:50

黄牛田電影 参上!

インディペンデントであること、記録すること、表現することを問いかけ、意欲的にドキュメンタリー作品を発表している作家たちが立ち上げた映画グループ「黄牛田電影」。広東省の村「黄牛田」で自然した映画談話の末、結成したという。なぜか雄偉な風貌の男ばかりだが、今回は東京に大結集!メンバーは現代美術やデザインなどに素地を持つ者が多く、創作面のみならず作品の流通においても新たな概念を探求している。



火把劇團

火把劇團 Torch Troupes
2008/カラー/DVcam/110分
監督:徐辛(シュウ・シン)
四川の茶館で古くから親しまれた歌舞劇「川劇」が観客の老齢化と共に危機にある。現代風に衣替する劇団、がんに破産へ向かう劇団……。
11.5(日)20:00 トーク(徐辛)



排骨

排骨 Paigu
2006/カラー/DVcam/106分
監督:劉高明(リウ・ガオミン)
海賊版DVDを売る深圳の小さな店。アート系映画の情報収集に余念ない排骨だが、田舎出身で学歴のない自分でも「映画のような」幸せをつかめるのか……?
11.7(日)18:40 トーク(劉高明)



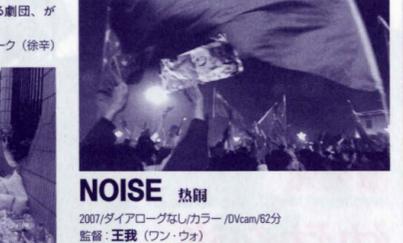
夢遊

夢遊 Dream Walking
2005/モノクロ/DVcam/86分
監督:黃文海(ワン・ウェンハイ)
English subtitled
自称有名芸術家4人のある夏の生活。逆立ち生態美術家、教師の画家、詩人、彼ら撮影する男。人生とアートを彷徨う。
11.4(日)20:55 トーク(「はじめまして、黄牛田です」)



南京路

南京路 Street Life
2007/カラー/DVcam/112分
監督:趙大勇(ジャオ・ダーヨウ)
中国全土からこの上海の繁華街に集まった路上生活者。ゴミ拾い、かっぱらい、流し、物乞い……。あらゆる手段をもって生き残ろうとする生命力の羅敷。
11.6(日)20:30 トーク(趙大勇)



NOISE 熱雨

NOISE 熱雨
2007/ダイアログなし/カラー/DVcam/62分
監督:王我(ワン・ウォ)
爆竹の喧騒と大騒ぎ。事件にむらがる野次馬。天安門広場の発散。中国人の生活にあふれる音と光の事件を批評する。上映後は黄牛田全員集合で大トーク。
11.7(日)21:00 トーク(王我ほか)



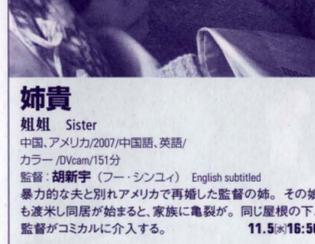
高三

Senior Year
2005/カラー/DVcam/95分
監督:周浩(ジョウ・ハオ)
English subtitled
福建省の高校で受験勉強に励むあるクラスを1年かけて追う。ひとりどり政策の歪み、貧富の格差、ネット中毒など現代中国の問題点が垣間見られる。
11.6(日)13:10



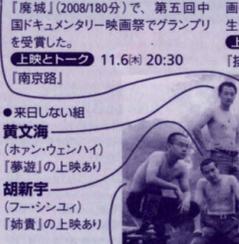
長江に生きる—兼愛の物語

長江に生きる—兼愛の物語
2007/カラー/DVcam/117分(原題:『兼愛』)
監督:馮麗(フォン・イェン)
三峽ダムで水没する村の兼愛さんは移住を推し進めようとする小役人と渡り合い、この大地に立つ。映画音響の菊池信之氏の手の入ったニューサウンド版が、渋谷・ユロスペースで劇場公開決定!
詳細は:
Tel. 03-5362-0671
(ドキュメンタリードリーム・センター/シネマトリックス内)



姉貴

姉貴 Sister
中国、アメリカ/2007/中国語、英語/カラー/DVcam/151分
監督:胡新宇(フー・シンユイ)
English subtitled
暴力的な夫と別れアメリカで再婚した監督の姉。その娘も渡米し同居が始まる。家族に亀裂が。同じ根の下、監督がコミカルに介入する。
11.5(日)18:50



前田佳孝

前田佳孝 [プログラム・コーディネーター協力]
1984年生まれ。高校卒業後、映画美術学校に入学。王兵の『鉄西区』に影響され中国へ留学。2年間の語学勉強の後、北京電影学院に入学。監督科に在学中。中国のドキュメンタリー作家を追ったドキュメンタリーを制作している。
11.5(日)20:00『火把劇団』



王我

王我 (ワン・ウォ)
1967年河北省生まれ。幼少時代を電力発電所で過ごす。ほどなく町に移り住み美術の勉強をするようになる。1984年から1991年は発電所で働き、1991年から1995年は中央工芸美術院で学ぶ。卒業後、グラフィックデザイナーとして広告業界の仕事をし、1998年より再び大学に戻り修士号を制作。その後デザイン会社に務めながら劇映画『Matou Street』を制作し、韓国映画祭に招待される。ドキュメンタリー『外面』(2005)、『NOISE』で自己表現の新たな方法を見出す。
上映とトーク 11.7(日)21:00『NOISE』

ゲストプロフィール

新進気鋭! 黄牛田電影の面々

トーク「はじめまして、黄牛田です」

11月4日(日)20:55~『夢遊』上映終了後
謎の映像集団・黄牛田電影の自己紹介です。総勢7名が来日します。

トーク「黄牛田大トーク」

11月7日(日)21:00~『NOISE』上映終了後
中国社会に対する異議申し立て? 連帯と自由のドキュメンタリー制作について来日ゲストによる徹底討論。

梁小武 (リアン・シャウー)

南京路

朱日坤 (ジュウ・クワン)

インディペンデント映画の製作と上映や流通などを幅広く手がけるプロデューサー、映画評論家。今年、北京郊外のアーティスト村・宋庄で自主運営の映画館をオープン。故郷の村をグループ名にたつた、黄牛田電影の代表。